

一心太助の天秤棒

～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ
シリーズ/NO 149号



Web サイト Youtube Twitter Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期22年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4300日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は276名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。



議案を議会開催前に、市民に公開してその声を聞いた上で賛否の参考にする

越谷市議会議会運営委員会が取り組んだ、三重県四日市と同県伊勢市の議会改革について、調査活動に1月22日、23日の両日参加した。このため通常実施の朝の駅立ちは中止した。

特に四日市市議会は、全国議会改革ランキングのトップや上位の位置をこれまで占めて来た。そのため、今回の調査活動の希望議会を私から議運委員長に要望していたことが実現した。特に、越谷市議会議運で論議が続いている議会へのタブレット導入を巡りすでに2年弱も協議しているにも拘わらず結論を見ていないことから、先進議会の四日市議会を推薦した。

当日の調査では、議員全員にタブレット（ノート型パソコン・12万円相当）を議会費（税

金）で購入しており、その通信費の半額は議員の政務活動費で支出出来る様になっている。

使用内容は議会に提案される議案や予算書、自治体の資料や通知等に活用している。

また、議会の本会場、委員会室、会派控室での使用はもとより、自宅や外部への持ち出しも許可しており、当然様々なアプリのインストールも出来るため、その通信費の半額は議員個人で負担する、との規定になっている。

そこで、私からパソコンの使用に関して全く個人的な領域もあるが、それは議会費で全額、購入したパソコンの性格からして正当な活動との区別がつきにくいではないか、と質問した。

応答した四日市議会改革委員会の議員からは、それは議員の良識の範囲で使用としている、と。当然と言えば当然の考え方であり、そもそも議員は選良であり社会的良識が通常よりも高いとの位置であることが、前提であることからすれば無理のない規定だ。

しかし近年選良である議員の不祥事が続発していることから議員への不信が高まり、まさに良識で説明出来ることを細かく規定せざるを得ない事態になっている。（もっとも不祥事を起こしている議員は全体の1%にも達していないのだが）

特に大きな教訓となったのは、議会開会の2週間（告示は議会初日の1週間前で全国一律で実施されている）も前に市長提出予定の議案をホームページ等で公開して、市民からの意見を公募した上で議会審議や採決の参考にしていく、との取り組みだった。

これは、議会の議決権の行使という最大の責務を遂行する上で、広範な市民の声を質疑や採決という政策決定過程へ市民参加を保障する事例として特質されることだからだ。

（1月22日・水曜日 23日・木曜日）



離婚するとき、親は子どもの意見を聞いてくれなかった。子どもは親の持ち物か？

今朝の駅立ちは、せんげん台駅西口で通常通り午前5時30分前から開始したが、辺りは真っ暗で寒気に包まれていた。（裏へ）

市政レポート「一心太助の天秤棒」の配布とともに越谷市議会議員有志の会が主催する「子どもの権利から考える共同親権とは？」シンポの案内チラシも配布した。当日は週明けの月曜日でもあり、通勤客も多く次々と市民が受け取って頂く中、馴染みの方3人からそれぞれ100円総額3000円のカンパを頂いた。

この日午後5時30分から午後7時前まで、越谷駅東口を会場に、このシンポ参加を呼び掛ける駅前街頭宣伝活動に取り組んだ。

主催は、議員有志の会のメンバーをはじめ超党派の議員や市民が参加してマイクを握り、チラシを配布した。

YouTubeでのライブ配信も実施していたが、同時にこの場所には清涼飲料水の販売活動も実施されていたが、午後6時過ぎには西口に移動された。それぞれ議員が個々にマイクで呼びかけた後、私が急遽コーディネーター役でミニシンポを開催した。

この進行の中で、次々と高校生が下校しており、チラシを受け取りながら中には、質問やスピーチに反応する場面が多く見受けられた。

この中には、自分の親は離婚したが、その際に自分の意見や考えを両親とも聞いてもらえなかった。離婚は家族問題なのに、と話す男子高校生もいた。子どもの権利条約や意見表明権が注目されてはいるが、まだまだ子どもの選択権や決定権の尊重を多くの親は理解していない。共同親権法が制定されたがその成立に拘わらず時代の変化の中で親子とは何か、家族はどうなっていくのか、を市民が考えるシンポがその機会になることを願いながら寒空の街頭宣伝活動を続けた。(1月27日・月曜日)

戦前から世界の列強国は、わが国を植民地支配の先兵として、後方から追い立てていた



沖縄市で開催された第20回全国地方議員交流研修会に2日間参加して来た。

主催は超党派の地方議員で構成している実行委員会で毎年1回全国各地で開催しており、今回のテーマは「欧米G7からグローバルサウスの時代へ われわれはどうすべきか」で基調講演を羽場久美子氏(青山学園名誉教授)が行った。戦前の大国は中国やロシアであり、この国の資源や港湾利用や生産物等の利権を巡り欧米列強が日清日露の戦争を通して、領土の分割と権益の確保のため、イギリス、アメリカは、自らの軍隊を派遣することなく、日本にその役割を押し付けた。当時の風刺画にはその様子が巧みに描かれており、サルのような日本軍人にイギリスとアメリカが、後方から追い立て、時にはおだてあげて直接的な軍事介入の先頭に立たせた。その結果中国大陸やロシア強国の割譲や支配を勞せずして手にいれた事として分かり易い。今日イギリスはかつての輝を失い、同時にトランプ大統領は、取引政治を露骨に展開することで自国の軍隊の死者を回避して中国の太平洋進出の第一列島線の防波堤を日本に背負わせよとしている。これは戦前の構造と全く同じだ。そして沖縄がその拠点であるから辺野古基地問題は、沖縄の民意が選挙や住民投票等で明確になっているのも拘わらず一行に解決していないし、宮古島のミサイル装備の自衛隊基地がその役割として存在している、とのお話を興味深かった。

(1月29日・水曜日 30日・木曜日)

第7回市政報告会を開催、教育長人事否決問題等議員と市民で活発な意見交換



12月越谷市議会で最大の焦点となった教育長人事の否決事案や自民党議員によるクルド人差別発言問題や職員定数11人増員の条例等を巡り、これらの提案理由や論点の整理を、第7回市政報告会で議員と市民の間で対話が展開された。主催は越谷市議会議員有志の会で、会場は越谷市役所多目的ホール。ゲストに福田晃越谷市長も参加。焦点の教育長人事の当該の先生も参加、反対意見への見解を述べられた。

(2月2日・日曜日)